

カトリック 仙台教区報

2011年5月15日 No.199
発行
カトリック仙台司教区
〒980-0014 仙台市青葉区本町
1-2-12
Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378
発行責任 広報委員会
URL <http://sendai.catholic.jp/>

仙台教区「新しい創造」基本計画

仙台教区は未曾有の大地震と大津波という、東日本大震災と名付けられた大災害を被った。4月18日、平賀徹夫司教は仙台教区の復興に向かって、「新しい創造」というタイトルでの基本計画を発表した。これから仙台教区はこの基本計画に沿って新たな教区づくりを目指すことになる。

基本方針

2011年3月11日午後、大地震、大津波、そして原子力発電所の事故が発生し、東日本、特に太平洋側の地域を襲った。この未曾有の大災害は（4月15日現在）死者13,000人余、行方不明者15,000人余、避難所に身を寄せる人の数13万人余を生み出し、家屋や財産を失った被災者の総数は百万人単位にも及ぶであろう。今、この大難難の中で苦しんでいる膨大な数の人々の間に、その人々と共に、私たち教会はある。



「我々は主において一つを確認したい。」

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです」と使徒パウロは教えている（2コリント5・17）。この大災害の中にある今、キリストと結ばれて新しく創造された者である私たち教会は、キリストが抱いたと同じ思いを抱きながら、一日一日、一層の「新しい創造」へと力強く歩みたい。

そのために次の姿勢をもって当たる。
①「新しい創造」である教会は、力の及ぶ限り広い被災地と被災

した人々を視野に置き、しかもその中で「谷間」におかれた地域やそこに暮らす人たちの心を生き、励まし、つなぎ、支え、寄り添う教会であることを目指す。
②被害が甚大であった沿岸部のみならず、仙台教区全体を組み込んだ体制を作ること、
「新しい創造」への歩みの中で「我々は主において一つを確認したい。」

③この実施に際しては、すべてが痛みを伴うプログラムであることとする。
基本計画としての二本の柱
柱・Ⅰ「仙台教区サポートセンター」の活動を主たる活動と位置づけ、全教区をあげてこれを推進する。

④ 3月16日に立ち上げられた同センターの活動を、仙台司教の責任のもと、維持・強化し、幅広く展開させるため、仙台教区として人材、物資の提供、活動拠点の提供などを全面的に推進する。

⑤ これに必要な費用はカリタスジャパンに寄せられた義援金を使わせて頂く。

③ これまでの同センターの活動方針である、「救援の対象は、単に信徒だけに止まらず、被災地すべての人々の復興の支えとなる」ことを方針とする。

④ 仙台教区サポートセンター本部、その前線基地（ベース）のために建物、敷地を提供してくれている教会があるが、今後も被災地のニーズに合わせ、できる限り積極的に全面へ展開する。

付記：新潟教区（避難所の提供、被災者支援、物資補給拠点の支援）、さいたま教区（福島県南部、いわき市での救援活動）、札幌教区（宮古教会付近）、東京教区（CTIC）からの救援活動をすでに始めていただいている。

柱・Ⅱ「仙台教区（4↓6、45）計画」を推進する。

① 国道4号線沿い及び内陸部の諸教会が、国道6号線および45号線沿いにあつて甚大な被害を受けた地域の諸教会との交流・支援を深め、被災地で被災した人々を支援する。

② そのために6号線および45号線沿いの諸教会で、現在、司教が常駐していない教会に仙台教区司祭を派遣する司祭人事を行う。手薄になる4号線沿い及び内陸部の教会の司牧のためには、日本カトリック司教協議会を通して、他教区からの司祭の派遣を要請する。

生命の泉

▼大震災直後、セ・リーグ開幕をめぐって議論があった。予定通り行おうとしたが結局19日の4月12日に開幕することになった。読売ホールディングス会長の渡辺恒雄氏はこの決定に憤慨したようだ。確かに震災被害の2週間後開幕というのは大方の支持は受けられなかったのも肯けるが、今回のように未曾有の災難に直面しても予定通りしようとする人と難儀している人を思いやって自粛しようかと判断する人がいると思う▼こんなケースの場合でも欧米では予定を取りやめるということはないと聞いたことがある。この度聞いた話だが、ドイツはフランクフルトで聖金曜日だけは音楽会やスポーツ・芝居などではない伝統があるようだ。自粛というのは珍しいのかもしれない▼いかに自粛するといつてもいつまでも嘆いていても始まらない。被災地域でも復旧を急ぎたいわけで早く普段のペースに戻す必要があるだろう▼全国的に各方面に広がった自粛ムードは私たちの日ごろ関わっている仕事や使命や活動などについて考え直す機会になった。つまり、これまでしてきたことがこんな時でも人を励ます力になり得ると考えてきたか。私たちが折るにしても平時であろうと緊急時であろうと同じだろうか▼これまで「地球にやさしい」というような言葉を何度も聞いてきましたがこんな災難に出会うと「自然環境こそ人間の生存を保護してくれてきた（坂本義和）のであって私たちの思い上がりで正さなければならぬ。人間中心。科学万能から自然に寄り添う謙虚さに気持ちを転換できるかが問われている。」

日本カトリック司教協議会
会長 池長 潤 大司教様

仙台教区司教 平賀徹夫

東日本大震災仙台教区「新しい創造」計画への支援要請

＜キリストと結ばれる人はいつでも、新しく創造された者なのです(2コリト5・17)＞
3月11日発生した東日本大震災という大災害を受け、仙台教区では復興のために「新しい創造」計画を立ててことに当たろうと考えました。つきましては、日本カトリック司教団からのご支援を願ひ、下記についてご高配賜りたくよろしくお願い申し上げます。

1. 仙台教区サポートセンターの活動への支援

1-1 司祭の派遣

大震災直後の3月16日、カリタスジャパンの全面的な支援によって「仙台教区サポートセンター」を立ち上げ、全国から多数のボランティアの協力を得て、被災者・被災地への救援活動を行っていますが、同センターの本部事務局において働く司祭3名程度の派遣を願ひます。同センターは一区切り6カ月(9月15日まで)として始めましたが、実際にいつ閉めるかは現段階では未定です。

1-2 修道者の派遣

サポートセンターの仕事(ボランティアのニーズ調査、ボランティアの管理、前線基地との連絡調整等)のために2週間単位で半年から1年の長い周期での派遣を願ひます。

1-3 青年信徒の派遣

サポートセンター本部及び前線基地のスタッフとして半年から1年のスパンで活動できる青年(30～40歳代)の派遣。

1-4 専門職の派遣

復興の時期に合わせた専門職ボランティアの派遣(傾聴支援、子ども支援、老人介護支援、建築関係支援等)。

2. 仙台教区「新しい創造」計画のため、特に司牧面での人材派遣

2-1 司祭の派遣

仙台教区では痛みを共有しながら教会の「新しい創造」のために頑張る覚悟です。そのために沿岸部の被災地に仙台教区の司祭を派遣します。これにより国道4号線沿いの教会に司祭が足りなくなるので、主にその部分に、期間を1～3年、人数を3～5名程度として派遣願ひます。

3. 物資の息長い継続的な救援を

物的ニーズは被災地ごとに、また復興の進捗度によって違いはあっても、ニーズは必ずあります。そのようなニーズに対応したいので、情報発信に合わせた、息の長い物的支援を願ひます。

4. 被災地の教会を全国の教会が姉妹教会として支えていただくことは可能か

当仙台教区内においても痛みを共有する実践として、国道4号線沿い(内陸部)の教会が沿岸被災地教会を支援していく計画を立てています。また、すでに、さいたま、新潟、札幌教区からは教区単位で被災者支援を開始していただいています。更に全国で希望してくださる小教区があれば姉妹関係を結び、それぞれの教会と被災地の教会とで被災後を生きる体験を共有し、主に結ばれた者どうしとしてのきずなを深めることができればよいと希望します。

以上

「教区年！」から仙台教区「新しい創造」へ

仙台教区発足75年を記念して開催する「教区年！」について、準備委員会を中心にして準備を進めていた中での今回の大震災。「中止した」とか「延期しても」などの意見もある中、司祭評議会と司祭団役員会の合同会議で平賀司教は「こういう時だからこそ、仙台教区の復興と互いのつながりを深めるためにも実施しよう」と決断され、司祭団もこれを了承した。内容については、復興に資するものとするよう多少の変更や工夫をする。

4月16日(土)教区センターで

行われた教区年！準備委員会

分らないことから、今年を「新しい創造」元年としてとらえ、活動

を継続するため「教区年！」の名

称は使わない。

1. テーマ「75年の感謝と希望を

2. 予定していたスタンプリートと

道は何年かかるか

「常に新しい創造へ」

「主においてわたし

私たちは一つ」と表

特に「教区年！」と

して1年間の設定を

していたが、復興への

道は何年かかるか

「新しい創造」元年としてとらえ、活動

を継続するため「教区年！」の名

称は使わない。

道は何年かかるか

「常に新しい創造へ」

「主においてわたし

私たちは一つ」と表

特に「教区年！」と

して1年間の設定を

していたが、復興への

道は何年かかるか

「常に新しい創造へ」

「主においてわたし

私たちは一つ」と表

特に「教区年！」と



(仙台教区事務局長 小松史朗)

神の国は今ここに来ている！



聖香油の祝別(聖水)



洗足式(聖水)



祭壇に平伏する司教(聖金)



洗礼の更新(復活徹夜祭)

平賀徹夫司教は、東北震災で多大な困難の中にある信徒たちに、復活主日のミサで、「私たちの喜びの原点である主のご復活を心からお祝いして、復活の主と共に、『今、ここに来ている神の国』を証しする者となっていきましょう」と励まされた。(以下原文要約)

皆さん、今日は主キリストのご復活の大祭日です。主のご復活祭、おめでとうござい

ます。
「主・キリストは私たち人類に罪の赦しを与えるため、わたしたちに代わって罪を償うために十字架上の死を遂げられた。しかし、三日目に復活なさった。そして私たちがイエス様の生き方にならって、神の子として生きるように、今、わたしたちと共にいてくださる」これがキリスト教の信仰、私たちの信仰の、一番の中心です。

イエス様がもたらしてくださった福音は、「神の国は今、来ている。神はどんな人にも(苦悩の中に沈んでいたり、

子たちを襲ったのは、茫然自失の状態、無力さ、絶望、恐れ、希望の無意味さ。ですから弟子たちは人々を恐れ、家の戸に力をかけてひっそりとしていたのがやっとでした。十字架上の死はこのように、弟子たちを完全に打ちのめしたのです。そこに、今日の福音が告げられます。

弟子たちは、ご自分を現してくださったイエス様を見て「あのイエス様は復活なさり、今、生きていけるのだ」と確信を持つに至ったのです。

イエス様が教えたとおり、「神の国は今ここにきている。人間は光を信じ、希望と喜びをもって生きていけるのだ」ということです。

今、東日本震災という大変な困難の中にありますが、それでも、「神の国は、今、ここにあり。人間は光を信じ、希望と喜

びをもって生きていける」というイエス様の教えは正しい、という確信は揺らぐことはありません。全世界の教会は日本のため、仙台教区のために祈ってくれています。教皇様や福音宣教省のディアス枢機卿様、韓国をはじめアジアの諸国、ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリアなど、司教団、小教区、学校、個人、いろいろなところから仙台教区へのお見舞いの手紙や義援金を送られてきています。5月15日(日)には教皇様の特使として教皇庁開発援助促進評議会(コール・ウヌム)議長のスラ枢機卿様が仙台に来られますし、これは全部、復活の主を信じ、その主のうちに世界中一つにな

つて、光の子として、神の国の証しとな

司教日程

5月・6月

- 5・1 ⑩ 塩釜教会
- 5 ⑩ 宣教司牧評議会
- 6 ⑩ 仙台白百合女子大
- 8 ⑩ 十和田教会
- 10 ⑩ 司教評議会 教区司教団役員会
- 13 ⑩ 部落差別人権委・事務局会議
- 14 ⑩ ヨハネ・パウロ2世
- 15 ⑩ 列福感謝のミサ(東京カテドラル 元寺小路教会 (ロペール・サラ枢機卿))
- 17 ⑩ 部キ連総会
- 19 ⑩ 仙台教区サポート会議
- 23 ⑩ 学校法人理事會
- 28 ⑩ 仙台教区修女連總會
- 30 ⑩ 司教団月例会
- 6・1 ⑩ 社会司教委員会
- 6 ⑩ 盛岡トミニカン修道院
- 7 ⑩ 司教評議員会 司教団役員会
- 12 ⑩ 聖霊降臨祭
- 13 ⑩ 17 定例司教総会
- 19 ⑩ 高松教区司教叙階式
- 26 ⑩ 大分教区司教叙階式

死の直前こうおっしゃいました。「これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている(ヨハネ16・33)」。

さあ、今日の主のご復活の大祭日、私たちの喜びの原点である主のご復活を心からお祝いして、復活の主と共に、「今、ここに来ている神の国」を証しする者となっていきましょう。

仙台教区サポートセンター活動報告

仙台教区サポートセンター事務局長 成井 大介



成井大介神父(神言会)は、カリタスジャパンから派遣され、教区サポートセンター立ち上げの時から献身的に活動しておられます。

仙台教区サポートセンターがボランティア受け入れを3月20日に始めてから、40日ほどの間に、500人を超えるボランティアを現場に送り出してきた。ここではその活動の一部を紹介したい。

泥かき

これまでのボランティア活動の大半を占めるのが、個人宅や小さな事務所などに入ってきた泥かき作業だ。ヘドロは非常に重く、臭く、滑りやすい。また、雑菌の塊であり、ちよつとした傷から破傷風になる恐れがある。骨の折れる仕事だが、家の中に重機を入れることはできないので、人の手で着実に作業を進めていかなければならない。

問える生活用品の選別と洗浄



津波で浸水、一度床板をはがして清掃



幸いにも無事に残った食器類、丁寧に拭いて

泥かきが一段落すると、今度は食器や家具などの生活用品でまだ使えるものを選別し、洗浄する作業が始まる。当然捨てなければならぬものもたくさんある。その判断は、作業を依頼した被災者がするわけだが、中には、泥をかぶって、水を吸って、もう使えそうにない箸の洗浄を頼まれることもある。「結局は捨てることになるんだろうな」と思いながらも、ひとつとしたら嫁入り道具であったのかも知れない、思い出の詰まった古い箸をおばあさんが見守る中きれいにする。

写真など、思い出の品の洗浄

ニュースでも度々取り上げられるが、写真などの思い出の品を洗うことも大切な作業だ。大切な人を亡くした人にとって、一枚の写真がどれほど大切なものであるか、想像もできない。持ち主を前に思い出の品を洗うのは大きな精神的プレッシャー

を伴う作業となる。

仙台教区サポートセンターを通して現場に出て行くボランティアの皆さんは、被災者や社協の皆さんからたいそう評判がいい。継続的にまとまった人数のボランティアを派遣できるということ、それによる実績を評価されているということが理由として挙げられると思うが、なにより、教会で共同生活をして、共に食事をし、共に一日の活動を振り返る時間を持つことで、人の思いや痛みに敏感に反応し、対応するすべや雰囲気ボランティアの皆さんが身につけていることが大きいのではないかとと思う。

活動に直接関わっている人、関わりたくても関われない人、多くの人がこの活動を支えている。また、いくつもの教区が救援活動に仙台教区内外で取り組んでいる。多くの人との連携のうちに活動を続けていきたい。

ボランティアさんの思い

被災地で活動し帰ってこられたボランティアさんたちの報告を聞く中で、現場の現状をほんの少しですが、知ることが出来ます。

*石巻の被害の広さがよく分かった。一軒一軒の家は外から見ていると分からないのですが、中はひどく汚れていました。とても住める状況ではないんです。

*TVの報道だけでは、被災地の現状が分からないですね。まだまだすることがいっぱいあります。

*ヘドロの臭いがきつくて、こんなところでは眠られませんか？

*体育館の中は、空気がこもっていて、ついたても何もないんです。避難所の環境がよくなっていない感じがしました。

*被災者の方々が暖かく、お菓子をくれたり、心が温まりました。

*自治会長さんが個人的にたこ焼き屋さんを呼んで、みんなの気分が楽しくなって、希望が見えてくる感じがしました。会長さんも「これが大切なんです」と言われていました。

*自分たちが帰ってからのことが気にかかります。

*これから心のケアが必要です。*ベースは縮小するのではなく、長期的な計画をもって行っていくと思います。



建具を外に出して洗う

*まだまだです。もつとボランティアが必要です。また来ます。*また来させてください。その後のこのボランティアの輪が広がっていくことを願っています。ボランティアさんたちは、被災地のこの先のことをとても心配されながら帰って行かれました。

ボランティア募集

仙台教区サポートセンターでは、東日本大震災の被災地におけるボランティアを募集しています。活動内容は様々ですが、5月2日現在では主に、宮城県塩釜市、石巻市、登米市米川、そして岩手県釜石市、およびその周辺における、社協のボランティアセンターを通して、個人宅やオフィスの泥かき、壊れた家具の運び出し、写真や位牌などの記念の品の洗浄などとなっています。

どなたでも参加できますが、高校生の参加には、保護者の同意書が必要となります。

ボランティア申し込み際に際しては、希望期間の1週間前までにご連絡くださいようお願いいたします。なお、ゴールデンウィーク後のボランティアさんが不足しています。ご協力よろしくお願ひします。

ボランティア受付用

email: sdscvol@gmail.com

tel: 090-1217-3233

ボランティアの目・こころ

被災地を訪ねてー

ボランティアをして感じ
たこと

に感謝！

いわき教会 遠藤 信乃
「今の自分に何か出来ることをしたい」と福島市吾妻総合体育館の避難所で二人の息子たちと一緒にボランティアをさせていただきました。

避難所には南相馬市などから被災された約1,300人の方が避難されています。

私は保育士の資格を生かして小さな子供たちのお世話をさせて頂きました。

避難所に行つてびっくりしたのは、子供たちは明るく元気いっぱいでした！

子供たちの笑顔から、こちらの方が生きる勇氣と元気をたくさんもらいました。

「子供たちの笑顔を守りたい！」心からそう思いました。絶望の中で希望の光を見出したボランティア体験でした。神



塩釜と大槌町の現状

志家教会 道又 譲

塩釜教会(塩釜ベース)に寝泊まりしている全国からいらつしやつたボランティアの方々と合流し、行政である社会福祉協議会(通称「社協」)のセンターに行き、ボランティアの受け付けを済ませ、ボランティア活動をさせてもらいました。

そのとき驚いたのは人の多さです。塩釜教会にいた人くらいでセンターに行きました。全国からのボランティアの方々が来ていて、ボランティアの仕事をもらうのに苦労したくらいです。

塩釜では社会福祉協議会のスタッフの方と、駐車場などの泥を撤去する活動をして参りました。

一緒に行動した塩釜市のボランティア職員の方の話ですと、塩釜市は恵まれている方で、隣

接する自治体(多賀城市、七ヶ浜町、仙台市若林区など)は、人が足りていないらしいです。その話を受け、次は大槌町に行つて参りました。

着いた途端に思ったのは、正直嘔然です。がれきの中で立ち尽くす人がちらほら。塩釜市でも確かに深刻な被害を受けてはいましたが、いろんな所でボランティアの方々が5人ずつのメンバーで歩き回つていて、不謹慎ではありますが、街自体が明るい雰囲気、少し賑やかな気がしました。

大槌町は、震災当時、町議会で会議の最中で、そもそも町長はじめ町の主立った人たちが流され、行政自体が機能していないため、ボランティアすら受け入れていない状況だったようです。

そのため、いまだ手つかずの瓦礫をひたすらよける作業を一日かけて行いました。

明るい兆しが見えている中で、いまだに救済の手の届かな



大槌町の現状

いところがあることも知りませんでした。

しかし、住民の方々から「ありがとう」と感謝の言葉をもらつたり、本当に大変な状況なのに、お菓子や飲み物を分けてもらつた時、泣きそうになるのと同時に被災地のためにもっと頑張りたいと思いました。

自治体によって状況はさまざまですが、大槌町役場の開設は、やつと先週立ち上がったようです。そのため、大槌町の住民はこれからやつと、被災証明等の手続きが受けられるようです。

帰りに、教区サポーターセンターのベースとなっている釜石教会へ寄らせていただきました。

釜石教会でタミサを終え、信徒の方、サポーターセンターの方、ボランティアの方々の多田さんの企画でバーベキューをしました(写真右下)。

そこでは信徒の方々とサポーターの方々のスタッフの方々、



そしてボランティアに来てくださった方々が共に支え合い、支援活動に尽くしていました。暗い気持ちになつていた私ですが、彼らを見て今後も支援活動を頑張ろうという気持ちになりました。本当にありがとうございます。

これらの経験を踏まえ、今後もし時間があれば被災地のために活動していきたいと思っています。

仙台教区サポーターセンターー一本杉ベース開設

サポーターセンターに集まっている支援物資の管理と配布を効率的に進めるため、4月末から一本杉教会に物資の一部を移し、一本杉ベースの活動が始まった。塩釜、石巻、釜石、大船渡等への物資の発送に加えて、若林区、宮城野区の避難所への支援物資の供給を目指し、すでに活動を開始している。

また、センターで働く他教区から派遣された助祭や神学生の宿泊のため、旧司祭館を手入れて提供している。



前回、仙台教区報198号(6ページ)で、日本カトリック正義と平和協議会発行のリーフレット「原子力発電は『温暖化』の切り札ではない」を取り上げ、その作成に携わった芳賀ヒロ子さんの寄稿を掲載し、原子力発電が国策として進められ、あたかも地球環境にやさしいエネルギー源であるかのごとく国民を欺いていることに警告を発した。さらに、「地球を大事にする会」のコラムで「原子力発電を考える」と題したSr.相良なおみの一文では、地震大国といわれる日本に54基の原子力発電所が稼働していることに疑問を投げかけ、未来に責任を負えるエネルギーについて議論を深める必要があると警告した。この時点で、まさか発行から5日目にあのような大惨事が起ころうとは、誰も予想だにできなかった。今回は、同会の白石裕氏(元寺小路教会・東北大名誉教授)に東日本大震災について論説していただいた。

東北地方太平洋沖地震 「千載一遇の機会に」 白石 裕

千載一遇という言葉があり、M8.3(8.6)に様子が似ております。千年に一度の意味で、今回は千載一遇の災害でした。

今回の地震はM9という日本地震史上最大の地震で、869年の陸奥国東方地震(貞観地震、



他に福島原子力発電所の事故があることです。貞観地震から1200年、社会規模の、そして科学技術の相違が桁違いな災害をもたらしました。その端的な現れが社会基盤を廃墟と化した津波被害と放射能汚染を伴う福島原発事故でありましょう。

津波の被害は地震のそれとは比較にならない莫大なもので、人も財産も、業務もすべて洗いざらい破壊してしまいました。残ったのは残骸のみ、ゼ口からの復興ではなく、マイナスからの復興になります。現在ますます深刻さを増している

のは津波に誘起された福島第一原子力発電所です。このままクールダウンできたとしても、長年月の汚染管理区域を広範囲に設定することになるでしょう。

核燃料を使う原発は確かに危険を内蔵しています。我々はそれを承知しながら使用し続けている。今回の事故について、安全性評価の基礎が不十分であった、あるいは安全停止過程での状況把握が不十分であったなど色々な論議がなされています。

津波に誘発された原発の事故について重要なことは早急な事態の収束です。過去の経緯を論ずるのは後回しです。そして、この様な事態を再び繰り返さないために、今回の事故の経過を正確に公表し世界で共有することです。日本には広島、長崎そして福島を「核の負の遺産」として残す責務があります。現代の我々はあらゆる面で電化の恩恵を受けており、快適な生活を送っております。その源となる電力の約3割は原子力に頼っております。地震国であり火山国でもある日本で、原発の立地は危険と隣り合わせであることは承知しております。もし、原発の危険性を避けようとするならば、現有原発の

東日本大震災



3月11日の地震は日本地震史上最大の地震で、地震の直接災害や津波という天災の他に福島の原子力発電所の事故という人災をもたらしました。この事故により広範囲の放射能汚染が起きています。「原発は怖い」は多くの人の思いであり、脱原発に異議を唱える人はいないでしょう。原発廃止のための実現可能な方向は、現有原発の安全性を強化しながら、代替エネルギーを開発し、慌てず、でも確実に脱原発を実行することでしょう。同時に、現在の過剰なエネルギー消費の社会を見直し、環境を保全しながら地球と人類が共生できる方策を考えることが必要です。そして、それこそが持続性のある社会の実現に役立つはずで、今回の災害を通して、一人一人が、そして皆が自然との共存を望むとき、新しい道が必ず開けます。

地球を大事にする会 白石 裕

安全性を強化しながら、代替エネルギーを開発し、徐々に脱原発を実行することが現実的でしょう。一方、現在の過剰なエネルギー消費の生活を見直し、環境を保全しながら地球と人類が共生できる方策を考える必要があります。そして、それが持続性のある社会の実現に役立つはずで、個人が、家庭が、社会が、国が、そして世界がそこに思いを致すとき、今回の災害が千載一遇の機会となることでしょう。

写真 震災前の福島第1原発

お知らせ

大船渡で出版社を経営している熊谷雅也さんは、津波で印刷所も本も流出した。今回取材を受け、NHK教育テレビ「こころの時代」5月22日(日)朝5時〜6時、5月28日(土)午後1時〜2時に放映されることになった。山浦玄嗣氏の仕事や、流出したイ・ピクス出版、津波をかぶった『ケン語訳聖書』のことが放映される。



復活祭に洗礼を受けて

復活祭に受洗された方々の喜びの声が届きました。名前(敬称略)年代・男女・洗礼名・受洗教会の順に紹介します。

法井 絵里香(のりい えりか) 20代・女・ジュゼッピナ・バキータ・野田町教会

私が受洗を決めたきっかけは、まさに「主のお導き」でした。今まで宗教とは無縁だった私が、ふと「教会に行きたい」と思い、翌々日にはカトリック野田町教会の門を叩いていたのです。何も分からず、本当に突然でしたが、それでも神父様は優しく迎え入れて話を聞いてくださいました。

大した理由ではありませんが、何もない生活に光をくださったのは主であると信じていますし、主と教会に感謝しています。

法井 真範(のりい まさのり) 40代・男・大天使ミカエル・野田町教会Ⅱ写真法井夫妻Ⅱ



この度は、イエス様、教皇様、司教様、神父様の愛をいただき、念願のクリスマスチャンに改宗できたことをこの場をお借りして皆さまに心より賛美と感謝を申し上げます。

ます。2年前の今頃、車で教会の前を通りかかったときに、体全体に教会からの御光を感じ、急ハ

ンドルで中に入り

ドアを叩いて以来、神父様のお話や日曜ミサにあずかり、心洗われ洗礼を受けたいと思い続け今日に至りました。これより教育部に入り活動の一つとして聖歌隊をつくり、子どもたちや聖歌を愛する方々で、街の中で一般の方々の心にイエス様の御声が響きますように努めたいと考えております。主の賛美と共に、ひと時でも皆さまの心がつながる時間が出れば幸いです。

斎藤 美枝子 60代・女・マリア・フランシスカ・元寺小路教会

私は、ミッシェンスクール出身です。宗教やフランス語の授業がありました。お祈りも毎日、朝の祈り、食前の祈り、終礼の祈りがありました。1年の時体調をくずしてしまい、入院しました。当時の担任の先生(シスター)がとても親身になって心配してくださいました。ずっと忘れられない思い出です。お世話になった先生は老健施設に入所されていると聞きました。そのうち会いに行きたいと思っています。

私はフルタイムで働きながら、4人の子どもを育ててきました。

子どもたちも巣立って、今は夫と二人暮らしです。やんちゃなトイプードルを育てています。とてもかわいいです。また、4月に初孫が誕生する予定です。

以前から自分に必要不可欠なことは「信仰」と思っていました。今回ようやく実現しました。

宋 利淳(ソンスン) 30代・女・クリステイナ・元寺小路教会

いつか宗教を変えるなら、カトリック信者になりたいと思った時期がありました。まさか外国でこのようなよき日を迎えるとは思いませんでした。今日に至るまで、たくさんの方々の支えがあったことを心から感謝いたします。

初めて教会に来た時から、今日に至るまで、あらゆることを支え続けて下さいました。本当に感謝します。

信者になりたてですが、その気持ち忘れずに、信者として、また人として成長できるように努力したいと思います。

S・K・80代・女・マリア・元寺小路教会



洗礼と堅信のお恵みをいただきましたことは、私にとってこの上ない喜びです。この日のためにお祈りくださった皆様に心より御礼申し上げます。さらに、心を込めてお世話下さいました神父様方、ありがとうございます。また、歩みののろいわたしをお導き下さり、励まし続けてくださったSr.菊池、そしていつもあたたかく見守ってくださった代母の延沢節子さん、今感謝の思いでいっぱいです。Ⅱ

写真・仙台中央地区合同洗礼式Ⅱ

上西 美恵 40代・女・マリア・ステラ・元寺小路教会

洗礼を受けるきっかけは人それぞれだろうが、今年この場所です洗礼を受けた13人の思いの中には同じ思いがあるに間違いなことでしょう。2011年3月11日、私たちの住む町を大きな災害が襲い、1万人以上の死者、1万人以上の行方不明者を出しました。自然のなす業に私たち人間は立ちつくすことしかできませんでしたが、まず最初に世界中の人々がしてくれたことは「祈ること」でした。どんなに科学が進歩しても「祈る」ということは全てのことの最初の一歩なのだと思えました。地震で教会もダメージを受けましたが、神様はどんな状況にあらうと、私たちを待っていて下さることに、神の偉大さを感じながらの特別な思いをもって洗礼の日を迎えられたことに、ただ感謝の気持ちでいっぱいです。後藤 久子 50代・女・ラファエル・元寺小路教会

3歳よりナザレト幼稚園に通い、カトリックとの縁は長く、よく教会には通っていました。5年前に仕事上の関係で抑うつになり退社。1年前に癌になり治療中。やつと自分の時間がもて、教会に通うことが出来るようになったのも神様の導きだと思い受洗を決心しました。

大久 怜子 20代・女・マリア・コンソラータ・東仙台教会

この大震災の中で、受洗出来た事の喜びを噛みしめ、意味を考えていきたいと思っています。

今の私に出来る事は分かりませんが、教会・共同体の中で必要とされる役割を果たせていきたいと思っています。

ご指導頂いた方々、お祝いして下さい下さった方々、これからお世話になる皆様「ありがとうございます。そして、これからよろしく願いいたします」。(次ページにつづく)

復活祭に洗礼を受けて(続)

武士 れい子(たけし) 女・キアラ
・一本杉教会

2年前、引越し先で偶然見つけた古い教会、一本杉教会である。

とある日曜日、誰に誘われたわけでもなく一人で教会の門をくぐり、ミサにあずかった。隣の席に座られたシスターが、心細げな私を帰り際に修道院の聖堂に誘ってくださった。祈りの場の清浄さと、フレンドリーなシスターが心に残った。その後、小針先生の聖書勉強会を経て、何の迷いも気負いもなく洗礼の意思を固めた。不思議なお導きに感謝します。

吉田 亀恵子 70
代・女・マリア・セシリア・元寺小路教会

私が受洗を決意したのは、娘の死だった。近年娘の弾くピアノの音色が祈りに聞こえていた。ワルシャワでの演奏の翌日、クラクフでたおれた。同行の西仙台教会僧氣様には大変お世話になった。帰国後、神父様、教会の方々



の温かいまなざしの中、葬儀ミサにあずかり涙が止まらなかつた。洗礼を受けた今、敗戦後の仙台でSr.猪岡の木ノ下での日曜学校、ザビエルの右手を掲げて市内を行進したことなどを思い出していた。受洗まで長かった道のりだったが、祈りの中で神様がいつも共にいてくださる。この私を全部知って

員になれたことに感謝申し上げます。
熊谷 和子 30代・女・アガタ・一本杉教会
復活徹夜祭の前日、職場で倒れた私。耳に先天性の障害があり、震災後メニエル病に…。更に、震災で負傷した首、腰が一気に悪化し、血圧は180・100にまで上昇しました。どうして神様は私に試練をお与えになるのか。徹夜祭を直前にしてただひたすら考えていました。ふとあるシスターの言葉が脳裏に浮かびました。「耳の障害も神様のお恵みなのです」。その言葉を思い出しながら、キリストの御受難を思い洗礼への心を強めることが出来ました。余震が続く中での徹夜祭。平賀司教様をはじめ、信徒の皆さま方のお心遣いのもと受洗出来ましたことを感謝しております。

ラ会のSr.小針です。小針先生は私に神さまのことをたくさん教えてくださいました。そして洗礼を受けることに反対している私の家族のために、ずっと祈り続けてくださいました。イエス様のご復活に合わせ、洗礼を受けることができてうれしいです！家族(教会)のみなさま、これからよろしく願います！
M・M・40代・女・マリア・ピア・元寺小路教会
「洗礼式までもうすぐ！」浮き立つような気持ちで始まった四旬節。直後の3月11日に大震災が起きました。

後藤寿庵400年祭

～胆沢平野開拓の祖～

2011年9月11日(日)

- 10:30 行列・胆沢土地改良区集合
- 11:00 ミサ・後藤寿庵記念廟前
- 13:00 記念式典・後藤寿庵記念廟前
- 15:00 記念講演・溝部脩司教(Zホール)
- 16:30 祝賀会(プラザイン水沢)



奥州市が岩手県内屈指の米どころとなったのは多くの先人たちの努力による。中でも、胆沢平野に水路を引くことに情熱を注いだ後藤寿庵の功績は大きい。後藤寿庵がどこで生まれどこで亡くなったかは定かでない。各地を流浪するうちに長崎の五島に渡りキリシタンになったことから苗字を五島(後に後藤と改名)、洗礼名ジョアンから後藤寿庵と名乗ったといわれている。

その後、伊達政宗に仕え水沢福原の領主となったのが1611年だった。福原の地名も福音の伝わる原との意味で寿庵が名付けたといわれている。寿庵は当時荒地だったこの地を開拓するため、私財を投じて胆沢川の上流から水を引くため水路の掘削に情熱を注いだ。現在も寿庵堰として豊かな水を供給している。

後藤寿庵が東北地方のキリシタンの代表者であったことは、1613年教皇パウロ5世に送った「奉答書」の信徒代表17名の筆頭に署名していることから明らかである。

今年は、後藤寿庵が福原の地に着任して400年を祝い、奥州市とカトリック水沢教会合同で記念行事が行われる。

「この機会に、仙台教区の皆さんの参加と、水沢巡礼をお勧めします」と高橋昌神父は精力的に活動している。

熊谷 凛(りん) 10
代・女・アンジェラ・メリチ・一本杉教会



わたしはカトリックの学校に通っている5年生です。幼稚園の年少の時から「神様」のことが大好きでした。2年生の時のある放課後、お母さんをお願いして一本杉教会に連れて行ってもらいました。そこで出会ったのがウルス

ふと思いきや梅津神父様の勉強会に顔を出して以来、教会を訪れることは私の喜びです。
聖歌奉仕や行事のお手伝いなど信徒の方達と交わりを通して、「祈りのある生活」「祈りのある人生」を教えていただきました。震災後の不安な日々の中、「祈る」ことは心の支えでした。
これからもますます、聖霊が降り注ぎ、心をひとつにして苦難を乗り越えて行きますように！